

建築工事業の皆様へ

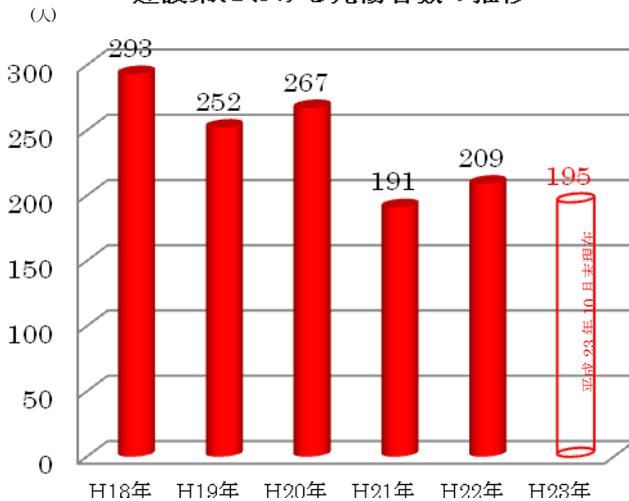
ストップ！墜落・転落災害！

～建設業で労働災害が増加しています～

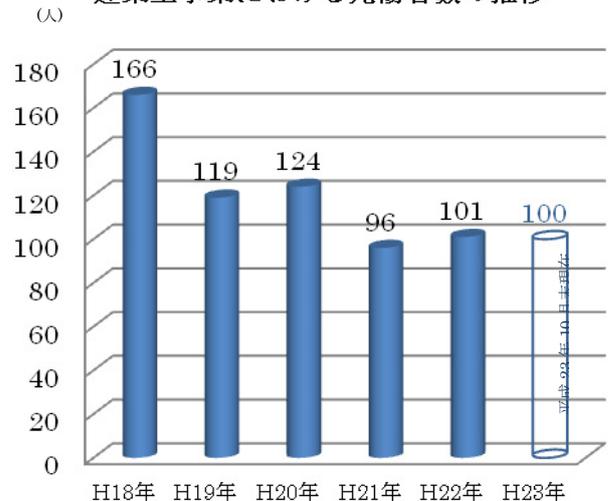
建設業における死傷者数は、平成22年に増加に転じ、本年10月現在、前年同期に比べて195人と、37人（23.4%）増加しています。また、死亡者数は、12月5日現在、4人と平成22年の2人と比べて倍増しています。

建設業（土木工事業、建築工事業等）195人の死傷災害のうち、**建築工事業の発生件数は100人**であり、建設業全体の約半数を占めています。

建設業における死傷者数の推移

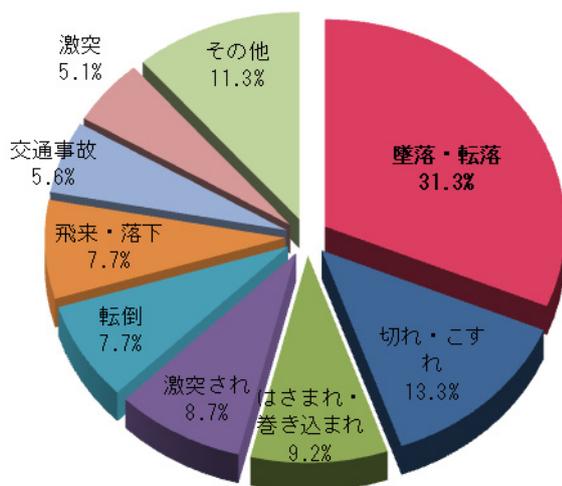


建築工事業における死傷者数の推移

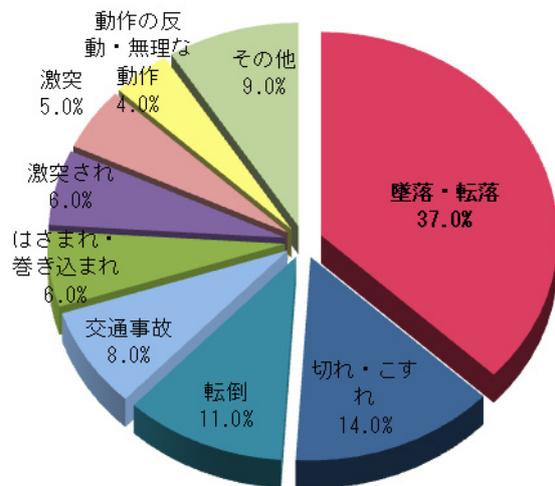


事故の型は、建設業全体では**墜落・転落が約3割と最も多く**（31.3%）、次いで切れ・こすれ（13.3%）、はさまれ・巻き込まれ（9.2%）となっています。

また、建築工事業でみると、**墜落・転落が4割近くとなっており**（37.0%）、建設業のうちでも、よりその危険性が高い状況が認められます。



建設業全体の事故の型（平成23年10月末）



建築工事業での事故の型（平成23年10月末）



墜落・転落災害防止のポイント

1. 墜落のおそれがある高所作業を行うときは、足場等により作業床の設置、作業床の設置が困難な場合は安全ネットを張り、安全帯の使用の徹底を図りましょう。
2. 開口部、作業床端等には、手すり、さん、又は覆い、ふた等の設置を行いましょう。
3. はしごは滑り止め等転位防止措置を確実に講じ、工具を持ったままの昇降、はしごに乗ったままの作業はやめましょう。また、脚立は開き止めを確実にセットし、天板上での作業はやめましょう。

平成 23 年に発生した墜落・転落災害事例

起因物	年齢	性別	概要
トラック	60 歳代	男	土砂及び転石をバックホウを使用して 10t ダンプトラックに積み込み作業を行っていたところ、転石にワイヤーをかけて積み込んだ後、ダンプトラックの荷台に上がりワイヤーを外そうとした時、勢いよくワイヤーが外れてその反動でトラックの荷台（高さ 1.6m）から後向きに転落した。
脚立	30 歳代	男	ダクトの保温作業中に、テープを取りに行く際、脚立を一度たたみ、再度作業をしようと脚立を再設置した時に脚立の開き止めが完全に固定されていなかったため、3 段目ぐらいの位置まで登った時に脚立が不安定になり転落した。
脚立	20 歳代	男	事務所新築工事現場において、脚立に上がって外壁板を打ち付けていたところ、バランスを崩し、約 1.2m 高さから転落した。
はしご	20 歳代	男	屋根の上から道具を取りに降りようとして、はしごに服が引っ掛かり、1.9m 下の地上に転落。
足場	30 歳代	男	一般住宅の外壁塗装中、高さ約 1.8m の足場上を後ろ向きに歩行中、足を踏み外し転落。
屋根	20 歳代	男	屋根上にて熱水器漏水修理作業を実施した。作業が完了したのではしごから降りるために安全帯をはずして移動したところ、作業中に降り出した雨のために屋根が濡れており、足を滑らせて高さ 7m 程度から花壇周辺に落下した。
仮設物	60 歳代	男	単管で組んだ仮囲いに張った防音シートを外す作業において、安全帯のフックを別の単管に付け替える際、足が滑って転落。
開口部	70 歳代	男	木造家屋新築工事において、2 階床で作業中、開口部から誤って 3m 下の 1 階床に転落し死亡した。